

[麻酔科]

[研修目標]

全身麻酔、硬膜外麻酔、脊髄くも膜下麻酔の術中管理を通して、麻酔に必要な基本的な知識と技術を「麻酔科医のための教育ガイドライン、改訂第3版、日本麻酔科学会」に準じて習得する。

A B C(気道確保、呼吸管理、循環管理)とその基盤となる生理機能を理解し、救急外来、一般病棟、集中治療室、手術室などでの救急医療、プライマリーケアに必要な知識と技術を習得する。術前診察によるリスク評価や説明同意(インフォームド コンセント)、術後診察を通して患者・家族の状況を把握し、患者を全人的視野からとらえる姿勢を形成する。

[研修指導医]

永田 洋一(麻酔科部長) 日本麻酔科学会指導医、日本麻酔科学会専門医、麻酔科標榜医
高木 佑芙紀(麻酔科医長) 日本麻酔学会指導医、日本麻酔科学会専門医、麻酔科標榜医

[研修コース・選択必修科]

各科ローテートの一環として、一般臨床医に求められる麻酔科の基本的な診察知識・手技を修得する4週間の研修を予定している

[研修指導体制]

麻酔科のスタッフが指導医としてマンツーマンで指導する。研修医は麻酔担当医の一員として指導医とともに手術患者の全身管理を行う。術前症例カンファレンスで症例ごとのリスクの把握と麻酔方針の検討を行う。1ヶ月あたり約30症例の予定手術及び研修待機を通して緊急手術を経験する。麻酔科の抄読会や、指導医による研修医対象のミニレクチャーを通して最新の知識に触れてもらう。また、指導医の指導のもとに学会発表をすることも奨励している。

[研修内容および到達目標]

(1)研修内容

- ・術前診察と説明同意(インフォームド コンセント)
- ・患者のリスク評価と麻酔計画
- ・全身麻酔、硬膜外麻酔、脊髄くも膜下麻酔の準備と実施
- ・周術期管理
- ・術後診察

(2)研修到達目標

・手術を患者中心のチームによる周術期医療の一環と捕らえ、その中での麻酔科医の役割を理解する。

- ・術前診察と説明同意を通して、患者の全身状態を把握し麻酔リスクの評価を適切に行える。
- ・症例に応じた麻酔計画の立案ができる。
- ・麻酔管理に必要な器具・薬剤の準備が適切に行える。
- ・全身麻酔薬、局所麻酔薬、麻薬、筋弛緩薬の基本的薬理作用、使用方法を理解する。
- ・生命維持に必要な生理機能(呼吸・循環・代謝)の全身麻酔や手術ストレスに対する反応を理解する。
- ・全身麻酔中の輸液管理・輸血管理の基本を理解する。
- ・麻酔器や各種モニターの基本構造を理解し、適切に使用できる。
- ・各種モニター及び血液ガス分析の意味を理解し、結果を評価できる。
- ・以下の手技が安全かつ確実に実施できる。
 - 末梢静脈ライン・動脈ラインの確保
 - マスクとバッグによる気道確保および用手人工換気
 - 基本的な気管挿管
 - 胃管の挿入
 - Difficult Airway への対処を理解する。
 - 中心静脈ラインの確保に必要な知識を習得する。